

しまねの社会教育 だより

島根県立東部社会教育研修センター
島根県立西部社会教育研修センター
vol.15



特集 しまねの「子ども読書活動」 —読書習慣はわが子への贈り物—

2013.
12月号

photo 「ねえ! この本読んで。」プロジェクトの様子 —浜田市立石見幼稚園にて—



しまねの「子ども読書活動」

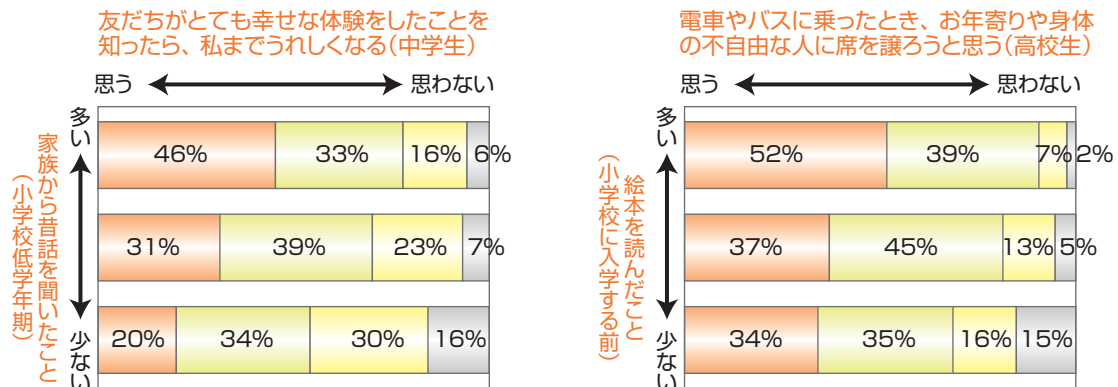
子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とされています。

(子どもの読書活動の推進に関する法律 第2条より)

子どもが読書習慣を身につけるには、幼少期からの継続した取組が大切です。そこで島根県の未就学児の読書習慣の定着に向けた取組について紹介します。

子どもの頃の読書は豊かな人生への第一歩

子どもの頃(就学前から中学時代)の読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在のさまざまな「意識・能力」が高いことがわかりました。例えば、小学校に入学する前や低学年時に読書活動が多かった中学生や高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識が高い傾向にあります。



国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究 報告書」より

「ねえ!この本読んで。」プロジェクト



「どんな絵本を読んでいいかわからない。」との声に応え、「おすすめしたいこどものほんリスト」を元に「しまね子育て絵本」を選定しました。ひとつのテーマごとに30冊をセットにして、子ども読書県しまねのキャラクター入りの箱に入れ、35セット合計1,050冊を絵本リストとともに市町村へお届けしています。

幼稚園・保育園(所)等の施設や親子が集まる場所へ貸し出します。詳しいことは、各市町村教育委員会へお問い合わせください。

17のテーマ

「しまね子育て絵本」セットテーマ

| | | | |
|-----------------|--------|--------------|----------|
| あかちゃん基本(0～2歳向け) | | 幼児基本(3～6歳向け) | |
| はる・なつ | あき・ふゆ | おてんき | ぎょうじ |
| のりもの | たべもの | からだ | かぞく・ともだち |
| どうぶつ・むし | しょくぶつ | むかしばなし | かがく・あそび |
| | ことば・かず | こわい・ふしぎ | バリアフリー |



— 読書習慣はわが子への贈り物 —

「読みメン」プロジェクト

とりわけ父親にスポットを当て、子どもと密接にふれあい、絆を深める絵本の読み聞かせの楽しさを体験してもらうことで、絵本を使った子育ての参画から「育メン」への第一歩を促します。

公共図書館や県の教育委員会では読み聞かせをしたときの思い等を記録することのできる「読みメンてちょう」を配布しています。あわせて、「読みメン3か条」を考案された、県立短大松江キャンパスの岩田英作教授による「読みメン道場」も実施しています。



読みメン3か条

一、「読みメン」は「育メン」の第一歩

子育てってどうしたらいいのだろう？ そう思ったら、まずは絵本の読み聞かせ。そこには子どもとのふれあいが自然に生まれます。読み聞かせの一番のコツは、自分自身が楽しむこと！ むずかしいことは何もありません。自分の気に入った絵本を好きなように声に出して読めば、それで立派な読み聞かせです。

一、「読みメン」で家庭円満

お父さんが子どもに絵本を読むと、喜ぶのは子どもだけではありません。お母さんにとっても、お父さんが子どもに向き合う姿は大きな癒しになるのです。お父さんの読み聞かせで、家族みんなが笑顔です。

一、「読みメンてちょう」は子どもへのプレゼント

「読みメンてちょう」に絵本を読んだ日付と絵本の題名、できれば子どもの反応もひとこと添えて記録をとっておくことをおすすめします。子どもがやがて大きくなったとき、記録を綴った「読みメンてちょう」をプレゼントしてはいかがでしょうか。お金では決して買えない最高のプレゼントになると思います。

岩田英作（島根県立大学短期大学部松江キャンパス
おはなしレストランライブラリー）



子ども読書フェスティバル

親子で読書活動に親しむきっかけづくりや気運の醸成を図り、島根県が推進している学校図書館活用教育などについて広く県民に周知を図るため「子ども読書フェスティバル」を県内3カ所で開催しています。今年度は、邑南町・益田市・出雲市での開催です。

12/1 子ども読書フェスティバル in 出雲

- わらべうた・民話などを盛り込んだおはなし会
- 藤田浩子氏による講演会



9/15 益田市・中高生と作家の対談



7/27 邑南町・おはなしレストラン

参加者の感想より

- フェスティバルに初めて来ました。たくさん絵本があり、子どもが動かず、ずっと手にとって見ていました。私も初めて見る本や懐かしい本があり、とても楽しかったです。
- 読書っていいな、とあらためて思いました。うちの子は、普段から本が好きで読み聞かせをいつもしていますが、お父さんにも読んであげてほしいなと思いました。

「その事業のねらいは何ですか？」

— 学習プログラム企画・立案のポイント —

公民館活動等の社会教育活動は、明確なねらいをもって実施することが最も重要です。今号では、「学習プログラムの企画・立案のポイント」について、県立東部・西部社会教育研修センターの主催講座からお伝えします。

紙面の内容は、今までに蓄積してきた情報を整理したものです。

学習プログラムとは… 学習者がこれからどのような学習を進めていくかについて、その目的・内容・方法を一連の手順として計画的に示したもの

3つのポイント

1 課題をつかむ

- 地域・住民の実態を把握する。
- 地域・住民の声やアンケート等の調査から課題を把握する。

2 目標の明確化

- 実施後の具体的なイメージやめざす理想の姿を設定する。

3 学習内容の配列

- 最大の効果が得られるよう学習内容・方法を吟味し、順序や発展性を考えた配列を組む。

課題をつかむ

目標の明確化

学習内容の配列

実施にむけて

学習プログラム立案の流れ

1 学習者の想定と把握

2 学習要求の把握

※個人の学び(要求課題)と住民・地域のための学び(必要課題)のバランスを考慮する。

3 学習目標の決定

※目標にてらして評価を考える。

4 学習内容の決定

5 学習方法の決定

6 学習資料・教材の選定

7 よりよい学習の場所と時間の決定

8 有効な広報や募集の工夫



学習プログラムの実施

地域社会に対する成果へ



評価は計画段階から 計画と評価の一体化

実施後、変容した学習者のイメージを明確にして計画を立てると、学習プログラムの質が高まります。

- やりっぱなしにならないように、計画段階から評価を想定する。
- 実施後の評価から計画を見直す。
- 評価は、数値で示せる具体的なものにする。



PDCAのマネジメント・サイクル…4つのプロセスを断続的に繰り返す仕組み。PDCAは、4つのプロセスの頭文字を表す。

今年度、奥出雲町で開催した講座で受講者が作成した「学習プログラム」を例にポイントを説明します。

| | |
|--------------|--|
| 事業名 | 子育て応援！みんなで手をつなごう |
| 事業目標 | 子育て世代の親子が、多くの地域の人とつながることによって、安心して子育てができる |
| 対象 定員 参加費 | 横田在住の就学前の子育て世代の親子（回によって定員が異なる）名 参加費：無料（第3回材料費） |

何のために実施するのか明確になっている。この目標を達成するための「手段」が各回の学習になる。

プログラムの展開

| 回 | 学習テーマ(タイトル) 学習目標 開催月(開催時間) | 学習内容・方法・場所 | 学習支援者 ・団体 | 備考 |
|---|--|--|---|---|
| 1 | 『だれんもで かんがえてみようや』 ・子育て世代のつながりをつくる ・田舎暮らしの良さ・難しさに気づく 保育公開日(60分) 実施(1回) | 保育公開終了後、保護者対象に実施(60分程度) 0)横田での子育てについての事前調査 (※田舎の長所と短所を引き出すため) 1)親学プログラム 2)アイスブレイク 3)グループで自己紹介 4)《ワークショップ》 「もし、子どもが田舎で育ったら」(田舎の長所と短所) 5)今後のプログラムの案内 会場：幼稚園 | (1)親学ファシリテーター (2)健康づくり推進室、子育て支援室 | ・幼稚園に事前に連携を依頼 |
| 2 | 『子どものときはこげして 遊んだもんだわね!』 ・おじいちゃん、おばあちゃんと親子同士が 一緒にふれあい、つながりを深める 保育公開日に 合わせて実施(1回) | 地域の高齢者の方に昔の遊びを親子で教えてもらう 1)作って遊ぶ ・たらよの葉っぱの名刺交換 ・こま、かるた、竹トンボ、水でつぼう、たこ お手玉、あやとり、べったん、などを作ったり 遊んだりしながら交流する ・保護者が作り方を学ぶ 2)民話・昔ばなしを親子でできく 会場：幼稚園 | (1)地域の高齢者 (2)保育園・幼稚園の職員の方 (3)中学生(スタッフとして参加) (4)健康づくり推進室、子育て支援室 | ・幼稚園に事前に連携を依頼 |
| 3 | 『いっしょにつくって みらんかね!』 ・中高年の人の豊かな知恵を学び、尊敬 の念を抱く ・食を通して家族のつながりを深める 8月・10月・2月(3回講座) | 季節に合わせて親子で一緒にできる郷土食の料理教室を実施 1)郷土食づくり体験(3回講座：参加自由) ◎漬け物づくり(奈良漬)(夏) ◎こんにやくづくり(秋) ◎味噌づくり(冬) →作ったら持って帰って家で食べる 2)おばあちゃんのつくった郷土食の試食会・語らい会 会場：コミュニティセンター調理室 | (1)地域の料理名人 (2)婦人会 (3)ヘルスメイトの方々 (4)健康づくり推進室、子育て支援室 | ・「何を(内容)」「どのように(方法)」を明確にしている。 |
| 4 | 『おつつあんちと あそびあこい!』 ・地域の良さを体感し、自然の中で育てる 喜びを知る(地域のおじいさんにとっては再 発見になる) 10月下旬 | 地域のおじいさん・おじいさん+自然+親子="素材を生かした自然体験" 1)「地域探訪スタンプウォークラリー」 おじいさんが子どもの頃に遊んだことを親子で体験し、スタンプを押しながら巡っていく(参加者がやりたいことを選んで巡る※全部回らなくてもよい) ・ミズとり(釣り用)・川で釣り・縄をなう・栗拾い ・木登り体験(アケビとり) ・近所の柿をいただく(近所の人にあいさつしよう!) 会場：地域各所 | (1)おじいさん・おじいさん中心 (2)高校生の有志 (3)健康づくり推進室、子育て支援室 | ・地域各所に事前に依頼 ・地域の専門学校の学生にスタンプのデザインを依頼 |
| 5 | 『がいにふったねえ! わくわくうれしくなっちゃうね』 ・横田の自然をうまく利用し、地域のよさを 見直し、地域とつながりながら子育てをし ようとする気持ちを高める 2月 | 「雪まつり」 1)雪を楽しむ(「雪が多くて大変」から「雪を楽しむ」へ) ・かまくら作り・雪灯籠のローソクづくり ・雪の雪像づくり⇒コンテスト 2)夜に雪灯籠の点灯式 3)雪像コンテスト発表 4)かまくらでぜんざい、こんにやく田楽、おでんを食べる (お世話になった地域の人たちを招待) ⇒楽しく体験しながら、地域の自然・良さを学び、地域を再発見する 会場：学校の校庭、コミュニティセンター併設の公園 | (1)地区振興会 (2)福祉振興会 (3)地域の専門学校の学生さん (4)健康づくり推進室、子育て支援室 | ・小学校に事前に協力を依頼 |

【事業実績】
●予定していた活動を開催できたか/活動実施回数/(最終回) ●各回の参加人数はどのくらい来たか/人数集計/(各回)
●振り返りでの感想/親学プログラムの完成/(第1回)

【事業の直接的な効果】
●横田の子育ての良さを発見できたか/アンケート/(1回目と5回目とを比較して意識の変化を見ていく)
●異世代(おじいちゃん、おばあちゃん、大学生、高校生、中学生など)の友だちができたか/名刺交換の枚数/(各回の参加者・支援者との名刺交換)

【事業目的達成度】
●横田の子育て世代が安心して子育てできるようになったか/意識の変容度調査/事後調査・追跡調査を行う

「事業目標」から「評価」を立て、整合性・妥当性のある目標と評価になっている。

内容や対象がわかりやすく、魅力的な事業名になっている。

5回の学習が順序性・発展性を考えて配列してある。

目的、学習内容に応じて「参加型(ワークショップ)」といった学習方法を効果的に選択している。

学習テーマは興味や参加意識が高まる表現になっている。

毎回の学習の目標が明確になっている。

回数は最も学習効果が高まるように考えている。

客観的に(数値で)評価できるようになっている。

「学習の効果」「学習の達成度」が評価できるようになっている。

事前調査を行い、学習者の実態を把握している。

「高校生」「子育て支援室」など様々な立場で学習を支援する人を効果的に配置している。

季節や自然をいかした学習を行っている。

学習に適切な場所で学習が行われている。

立案者の感想

- 目標・目的の違いや評価と目標は表裏一体であることなどを具体的に教えてもらい、とても参考になった。ぜひ、実践してみたい。(公民館主事)
- 企画・立案は目標と評価が重要だと思った。公民館にもちかえり、自分の事業を見直して、具体的に生かしていきます。(公民館主事)

「学習プログラム」について、くわしくお知りになりたい方、学習プログラムを作成されたい方は、県立東部・西部社会教育研修センターにご相談ください。
※紹介した学習プログラムは、県立東部社会教育研修センターホームページでご覧いただけます。

社会教育の実践紹介

益田市

「子ども達を支える」「子ども達が支える」人財が育つ地域づくり

豊川地区つろうて子育て推進協議会 会長 出雲 佳代子

人口の減少、高齢化、少子化……。全国的な課題なのでしょうが、私たちの豊川地区もこのような課題に直面しています。

これまでは地域が子ども達の活動を支えてきましたが、地域団体の高齢化に伴い、これまでの活動が難しくなったように思います。そんな中、もう一度地域全体で現状を確認し課題解決に取り組もうという声があがり、昨年「豊川地区つろうて子育て推進協議会」が発足しました。まず、西部県民センターの「子ども地域活動モデルづくり事業」に



豊川地区連合運動会のスタッフとして参加



「子ども地域活動部会」中学生部会の様子

取り組むことになりました。今まで小学校の行事にスタッフとして活躍していた中高生を中心に「子ども地域活動部会」を立ち上げました。さらに、子ども地域活動先進地との交流などを通して、子どもが自発的に活動する場をサポートしていきたいと考えています。

豊川地区で一番大切にしたいのは、やはり「つながり」です。こうした事業を通じて地域コミュニティが活性化し、その中で子ども達が学び、考え、次世代を支える人財が育つ、そんな地域づくりを目指して活動していきます。

海士町

地元の方に案内していただく「ふるさと再発見ツアー」

海士町中央公民館 村尾 由美子

海士町中央公民館では、ふるさと海士町を愛し、歴史や伝統文化、自然を語れる人づくりをめざし、「ふるさと再発見ツアー」を開催しています。

これは、海士の歴史、文化を探索し、その魅力に気づいてもらう企画です。開催する上で特にこだわっていることは、「地元の方」に案内していただくこと、「歩く」ということの二つです。地元の方のお話は、本にまとめられていない地元だけの特別な伝承であり、歩いて巡ることで普段見逃してしまいがちなポイントを押さえることができます。



名調子で語る案内人



“崎”を歩く

今年5月に開催した崎地区のツアーでは、地元の名物案内人をお願いし、地区の歴史にちなんだ唱歌の披露も交えながら、名所を巡り、季節の移り変わりを感じながらの楽しい一日となりました。何度か聞いたお話でも、聞きやすい言葉、なめらかな語り口に引き込まれ、案内する側も日々腕をみがいておられるのではないのでしょうか。

毎回のプログラムは案内人のオリジナルです。しかし、案内できる知識や技能を持つ方は高齢になられているのが実態であり、参加者から若い案内人が生まれることを期待しています。
(実証!「地域力」醸成プログラム 平成24年度モデル公民館)

12月～3月の県内社会教育関係の研究大会等のお知らせ

■島根県公民館研究集会(西部会場)

日時：平成25年12月1日(日) 9:40～16:00
会場：元気館他(邑南町)
お問い合わせ：県社会教育課 TEL0852-22-5428

■191交流協議会「輝」そばサミット

—6公民館協働事業—

日時：平成25年12月1日(日) 10:00～15:00
会場：美都温泉湯元館周辺(益田市)
お問い合わせ：益田市教育委員会 市民学習課
TEL0856-31-0622

■みさとほっとあっと広場

—人権を考えるつどい—

日時：平成25年12月8日(日) 12:30～16:00
会場：浜原隣保館(美郷町)
お問い合わせ：美郷町教育委員会 社会教育係
TEL0855-75-1217

■結集!しまねの子育て協働プロジェクト 第2回つなぐ・つながる実践発表交流会

日時：平成25年12月15日(日) 10:00～16:00
会場：あすてらす研修室(大田市)
お問い合わせ：県社会教育課 TEL0852-22-5428

■松江市「横の一貫教育研修会」

日時：平成25年12月15日(日) 14:00～16:40
会場：島根県市町村振興センター タウンプラザしまね(松江市)
お問い合わせ：松江市教育委員会 学校教育課小中一貫教育推進係
TEL0852-55-5341

■大田市まちづくり研修会

—地域課題の解決に向けて—

日時：平成26年1月25日(土) 13:00～16:15
会場：大田市民センター(大田市)
お問い合わせ：大田市教育委員会 生涯学習課
TEL0854-82-1600

■実証!「地域力」醸成プログラム成果発表会

日時：平成26年1月30日(木) 10:00～15:30
会場：島根県民会館(松江市)
お問い合わせ：県社会教育課 TEL0852-22-5428

■子どもの育ちを考える研修会

—子どもの体力向上を切り口として—

日時：平成26年1月18日(土) 14:30～16:30
会場：悠邑ふるさと会館(川本町)
お問い合わせ：川本町教育委員会 社会教育係
TEL0855-72-0594

■おおなんドリーム学びのつどい

—小中高校生による町へのメッセージ—

日時：平成26年2月2日(日) 午後
会場：元気館(邑南町)
お問い合わせ：邑南町教育委員会 生涯学習課
TEL0855-83-1127

■益田市・鹿足郡公民館振興大会

日時：平成26年2月7日(金) 9:00～16:00
会場：益田市立市民学習センター(益田市)
お問い合わせ：益田市教育委員会 市民学習課
TEL0856-31-0622

■浜田市公民館活動研修交流会

日時：平成26年2月8日(土) 時間未定
会場：弥栄会館(浜田市)
お問い合わせ：浜田市教育委員会 生涯学習課
TEL0855-25-9720

※県内でおこなわれる社会教育に関する研究大会・研修会等を案内します。
※市町村で実施されるものは、その市町村外からの参加が可能なものです。

前号14号の訂正とお詫び

特集記事「『しまねの公民館』のこれから(2p)」の内容に誤りがありました。「公民館に関わるものの思いをかたちに」の1行目(誤)「平成18年に」→(正)「平成19年に」でした。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正をお願いします。

編集スタッフから

ある日、絵本を読んでいた息子が、号泣して私のところへかけてきた。何かとよくよく聴いてみると、絵本に登場するうさぎのことがかわいそうだと訴えるのだ。絵本の中の誰かさんに自分を重ね、誰かさんの『おもい』に思いを馳せてぼろぼろと涙を流している。絵本ってこんなに子どもの感性を揺さぶるのだ。幼い子どもは、理屈抜きにいま目の前にある一瞬にどっぷりつかることができるんだ…。わが子の幼い頃の出来事を先日ふと思い出した。一緒に絵本を選んで楽しんだことを懐かしく思う。そんな幼かった息子は、今では『本の虫』だ。今でも本の中の誰かさんと冒険したり事件を解決したりしている。
「絵本」や「読書」を社会教育に活かす…。今後の社会教育のひとつの視点にしていきたい。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/
E-mail: tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみ〜る3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/
E-mail: seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

第16号は
3月末
発行予定

島根県立少年自然の家

島根県立少年自然の家は、島根県中央部の江津市室神山(通称浅利富士)中腹に位置し、小学生だけでなく幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用していただける研修施設となっています。

心に残る思い出の1ページをつくりに来てみませんか？

子どもたちに豊かな体験活動を!!

親子交流体験活動や自然体験活動などの機会を提供します。

- 親子や家族対象の事業
- 新規プログラムの開発
- 利用団体指導者研修
- 小学生対象の自然体験事業
- 中学生リーダー研修

チャレンジ・ザ・サマー

小学1～4年生と保護者対象

大自然の中で一緒に行動し、共通の体験を通して家族の絆や交流を深めます。



ジュニア・サマー・キャンプ

小学5・6年生対象

4泊5日のキャンプで、山や海など自然の中で活動します。初めて出会う友達と協力しあい、人間関係能力を育みます。



これからの主催行事

「ジュニア・ウィンター・キャンプ」

- 対象：小学5・6年生
- 期日：12月21日(土)～23日(月)

新規「家族で楽しむ野外活動Ⅲ」

- 対象：年長児～小学3年生と保護者
- 期日：3月8日(土)～9日(日)

新規「中学生リーダー研修」

- 対象：中学2年生(来期生徒会執行部員)
- 期日：3月27日(木)～28日(金)

さまざまな体験活動プログラムを!!

利用して下さるみなさんに、様々な体験プログラムの提供や、研修指導・宿泊指導を実施します。

- 集団宿泊研修、遠足、学習などの学校教育
- 子ども会活動、サークル活動などの社会教育
- 新入社員研修、講演会などの職場研修
- 保育園、幼稚園、ご家族、お友達同士の利用
- アクアスやB&Gとの連携事業



体験活動を取り入れた新入社員研修は、少年自然の家ならではの!

少年自然の家へ行こう!

研修のねらいを設定したら



島根県立少年自然の家

〒695-0007 江津市松川町太田610
TEL.0855-52-0716 FAX.0855-52-0707

研修のねらいが達成できるよう、プログラム(活動)のアドバイスをします。お気軽にご相談ください。